

普及発信施設内装整備費の考え方

| | コーナー名称 | 展示制作、特殊造作、特注機器 | | |
|---------|--------------------------|---|--------|----------------|
| | | 内訳 | 数量 | 単位 |
| A | チケット売り場 | 販売窓口カウンター | 6 | 箇所 |
| | 総合案内（受付） | 受付カウンター、車椅子用カウンター含む 情報コーナー（情報検索ハード、ソフト） | 1 2 | 箇所 箇所 |
| B | イベントスペース | 映像音響機器 | 1 | 式 |
| | | 移動型ワゴン（物産展用） | 5 | 台式 |
| | | 仮設ブース | 1 | 式 |
| C | 体験展示室 | 展示造作（展示台、演示具） | 700 | m ² |
| | | グラフィック | 700 | m ² |
| | | 映像音響機器 | 700 | m ² |
| | | 映像コンテンツ | 700 | m ² |
| | | 模型造作（ハンズオン展示含む） | 700 | m ² |
| | | 展示照明 | 700 | m ² |
| | | 舞台再現造作 | 5 | セット |
| | | 大道具、小道具 | 3 | セット |
| | | 壁面ケース | 20 | m |
| | | 覗きケース | 10 | m |
| | | ICTによる体験型システム・コンテンツ | 4 | セット |
| | | D | 企画展示 | 壁面ケース |
| 移動壁28m | 8 | | | 枚 |
| 覗きケース | 4 | | | 台式 |
| 行燈ケース | 4 | | | 台式 |
| 演示具 | 1 | | | 式 |
| グラフィック | 1 | | | 式 |
| 映像音響機器 | 3 | | | セット |
| 映像コンテンツ | 1 | | | 式 |
| 展示照明 | 1 | | | 式 |
| E | 飲食店舗（レストラン） 飲食店舗（カフェ） | | | ※内装、空調、厨房含む |
| | F | レファレンスコーナー（図書閲覧スペース） レファレンスコーナー（映像視聴スペース） | | |
| G | レクチャー室（大） | 映像、音響機器 移動観覧席 ※舞台・照明設備は除く | 1 1 | 式 式 |
| | レクチャー室（小） | 映像音響機器 | 1 | 式 |
| H | ショップ | ※内装、空調含む | 200 | m ² |
| | その他 | 初代国立劇場メモリアル展示 劇場ツアー用コンテンツ | 1 1 | 式 式 |
| | 上記計 | | | |
| 共通 | 設計費 | ※一般社団法人日本ディスプレイ業団体連合会発行「展示施設・商業施設・文化施設等 企画・設計等の業務及び報酬基準」により算出 | | |

普及発信施設における来場者数想定【A:チケット保有者は体験展示観覧料無料】

| 【設定条件】 | | | 【設定の考え】 | | |
|---|----------------------------------|--------|---|---|---|
| ・開館日数 358日 ・休館日 7日間(12/29～1/2、創立記念日、施設メンテナンス日) ・基本営業時間 10時～19時(9時間) | | | ・普及・発信施設として観劇利用の促進や伝統芸能の普及啓発目的を踏まえ、利用料金の設定はできるだけ低価格に設定 ・体験展示は観劇チケットを持っている人は観覧料無料とする(チケット有料・無料は問わず) ・原則、何を主目的に来たかをベースに積算 | | |
| 区分 | 事業内容 | 事業数(回) | | 年間来場者数(人) | 備考 |
| | | 日 | 年間 | | |
| サービス購入型 + 利用料金制 (混合型) | 体験展示 | | 1 | 137,000 | 18歳以下無料、減免率0.6と設定 来場者人数はH31年度観劇利用者数47万人より、その25%が観覧と設定(企画展利用者の2倍) 無料対象 レクチャー室利用者想定を1万人/年とし、その25%が観覧と設定 無料対象 体験展示を目的として来館する人を50人/日と設定(企画展来館者数208人/日を参考に、その25%と設定) 【来場者数】(470,000×0.25) + (10,000×0.25) + (50×358)=137,900 137,000 |
| | 展示関連イベント(体験展示・事業者企画) | | 12 | 420 | 展示テーマに合わせた講師を招いた講座やワークショップ、スタッフによる案内等、レクチャー室小や体験展示室内などを想定。 月1回程度、平均300円程度の参加費で設定(無料～材料実費等) レクチャー室小定員(50人)×参加率0.7=35人 【来場者数】12回×35人=420人 |
| | 企画展示(振興会企画) | 310 | | 38,688 | 現情報展示館 平均208人/人(H31年度実績・約64,000人、公演利用者数の約13%) 年間開催日数(H31年度実績):309日 310日 展示替え期間10日/回、メンテナンス等考慮 有料化に伴い来館者数を60%に設定、減免率0.6と想定 【来場者数】開催日309日×1日208人×有料化調整0.6=38,563人 |
| | 集客イベント(大型) | | 4 | 55,900 | ・さくらまつり(H31年度実績48,000人)、鏡開き(1,000人設定)リニューアル効果として1割増し ・夏や秋の季節に合わせた施設全体のイベント(盆踊り・夏祭り、お月見等関連で各1,000人設定) 【来場者数】(48,000人+1,000人)×1.1+1,000人×施設全体イベント2回=55,900人 |
| | 集客イベント(通常) | | 24 | 840 | イベントスペースやレクチャー室を使用した簡易なワークショップや演奏会・イベント等のイメージ 平均50人程度×参加率0.7=35人、週1回、参加費無料で設定 【来場者数】24回×35人=840人 |
| | 劇場ツアー(基本) | | 226 | 3,164 | 土日祝日の1日2回(113日:50週×2+祝日13日 土日除く)、20人設定×参加率0.7=14人 減免率0.6と設定 ＜参考＞H31年度公演実績:大劇場196日・260回、小劇場196日・307回、休演日162日(想定) 【来場者数】113日×2回×14人=3,164人 |
| | 劇場ツアー(特別) | | 4 | 56 | 年4回程度、20人設定×参加率0.7=14人 基本ツアーに特別体験等オプション付き等(食事券セット、お土産付き等) 減免率0.6と設定 【来場者数】4回×14人=56人 |
| | 劇場ツアー(自由見学)、立ち寄り | | 358 | 14,320 | 運営スタッフが案内せず、来場者自身で施設内見学や、立ち寄り利用(自由見学)を想定 憲政記念館(近隣施設)の年間来場者数約72,000人(208人/日)の20%と設定(40人/日) |
| | 各種イベント・サービスのオンライン配信(有料) | | 24 | 840 | 普及イベント時の同時配信、リアル35・オンライン35(計70)で設定 【来場者数】24回×35人=840人 |
| | | | | 251,000 | |
| サービス購入型 (料金収受代行) | 展示関連イベント(企画展示・振興会企画) | | 8 | 280 | レクチャー室小定員(50人)×参加率0.7=35人、四半期に2回 【来場者数】8回×35人=280人 |
| | 普及イベント (伝統芸能講座・ワークショップ、レクチャー) | | 30 | 4,200 | レクチャー室大・小定員(200人)×参加率0.7=140人、年28回(伝統芸能講座・ワークショップ各月1回、レクチャー隔月1回) 参加費は普及発信機能の主旨から現行同様に無料 【来場者数】30回×140人=4,200人 |
| | レファレンス(閲覧・視聴関連) | | 1 | 5,000 | 年間閲覧室利用者数3,625人・視聴覚室902人(令和元年度実績)・開室日249日 20人/日 【来場者数】20人×249日 5,000人 |
| | 大レクチャー室 貸室事業 | | 100 | 10,500 | 大レクチャー室定員(150人)×参加率0.7=105人/回と設定 年間貸出可能日数334日(営業日358日-普及イベント利用24日)、年間稼働率30% 100日(小劇場利用率より設定) 年間外部貸出日割合 50%と設定 50日 【来場者数】105人×100回=10,500人 |
| | 各種イベント・サービスのオンライン配信(有料) | | 24 | 840 | 普及イベント時の同時配信、リアル35・オンライン35(計70)で設定 【来場者数】24回×35人=840人 |
| | | | | 20,000 | |
| 計 | | 457 | 271,000 | 1日平均756人 現在の利用者数(展示・レファレンス・イベント等) 163,882人 現状の約165% | |

カフェ・ショップ、コインロッカー、自動販売機は除外

展示事業除く
(1.2回/日)

1,680

普及発信施設における来場者数想定[B:チケット保有者は体験展示観覧料割引]

| 【設定条件】 ・開館日数 358日 ・休館日 7日間(12/29～1/2、創立記念日、施設メンテナンス日) ・基本営業時間 10時～19時(9時間) | | 【設定の考え】 ・普及・発信施設として観劇利用の促進や伝統芸能の普及啓発目的を踏まえ、利用料金の設定はできるだけ低価格に設定 ・体験展示は観劇チケットを有していても原則有料(料金割引程度) | | | |
|---|----------------------------------|--|----------------|---|---|
| 区分 | 事業内容 | 事業数(回) | | 年間来場者数(人) | 備考 |
| | | 日 | 年間 | | |
| サービス購入型 + 利用料金制 (混合型) | 体験展示 | | 1 | 65,000 | ・18歳以下無料、減免率0.6と設定 来場者人数はH31年度観劇利用者数47万人より、その10%が観覧と設定 割引 レクチャー室利用者想定を1万人/年とし、その10%が観覧と設定 割引 体験展示を目的として来館する人を50人/日と設定(企画展来館者数208人/日を参考に、その25%と設定) 【来場者数】(470,000×0.10) + (10,000×0.10) + (50×358)=65,900 65,000 |
| | 展示関連イベント(体験展示・事業者企画) | | 12 | 420 | 展示テーマに合わせた講師を招いた講座やワークショップ、スタッフによる案内等、レクチャー室小や体験展示室内などを想定。 月1回程度 レクチャー室小定員(50人)×参加率0.7=35人 【来場者数】12回×35人=420人 |
| | 企画展示(振興会企画) | 310 | | 38,688 | 現情報展示館 平均208人/人(H31年度実績:約64,000人、公演利用者数の約13%) 年間開催日数(H31年度実績):309日 310日 展示替え期間10日/回、メンテナンス等考慮 有料化に伴い来館者数を60%に設定、減免率0.6と想定 【来場者数】開催日309日×1日208人×有料化調整0.6=38,563人 |
| | 集客イベント(大型) | | 4 | 55,900 | ・さくらまつり(H31年度実績48,000人)、鏡開き(1,000人設定)リニューアル効果として1割増し ・夏や秋の季節に合わせた施設全体的なイベント(盆踊り・夏祭り、お月見等関連で各1,000人設定) 【来場者数】(48,000人+1,000人)×1.1+1,000人×施設全体イベント2回=55,900人 |
| | 集客イベント(通常) | | 24 | 840 | イベントスペースやレクチャー室を使用した簡易なワークショップや演奏会・イベント等のイメージ 平均50人程度×参加率0.7=35人、週1回、参加費無料で設定 【来場者数】24回×35人=840人 |
| | 劇場ツアー(基本) | | 226 | 3,164 | 土日祝日の1日2回(113日:50週×2+祝日13日 土日除く)、20人設定×参加率0.7=14人 減免率0.6と設定 <参考> H31年度公演実績:大劇場196日・260回、小劇場196日・307回、休演日162日(想定) 【来場者数】113日×2回×14人=3,164人 |
| | 劇場ツアー(特別) | | 4 | 56 | 年4回程度、20人設定×参加率0.7=14人 基本ツアーに特別体験等オプション付き等(食事券セット、お土産付き等) 減免率0.6と設定 【来場者数】4回×14人=56人 |
| | 劇場ツアー(自由見学)、立ち寄り | | 358 | 14,320 | 運営スタッフが案内せず、来場者自身で施設内見学や、立ち寄り利用(自由見学)を想定 憲法記念館(近隣施設)の年間来場者数約72,000人(208人/日)の20%と設定(40人/日) |
| | 各種イベント・サービスのオンライン配信(有料) | | 24 | 840 | 普及イベント時の同時配信、リアル3.5・オンライン35(計70)で設定 【来場者数】24回×35人=840人 |
| | | | | 179,000 | |
| サービス購入型 (料金収受代行) | 展示関連イベント(振興会企画) | | 8 | 280 | レクチャー室小定員(50人)×参加率0.7=35人、四半期に2回 【来場者数】8回×35人=280人 |
| | 普及イベント (伝統芸能講座・ワークショップ、レクチャー) | | 30 | 4,200 | レクチャー室大・小定員(200人)×参加率0.7=140人、年28回(伝統芸能講座・ワークショップ各月1回、レクチャー隔月1回) 参加費は普及発信機能の主旨から現行同様に無料 【来場者数】30回×140人=4,200人 |
| | レファレンス(閲覧・視聴関連) | | 1 | 4,500 | 年間閲覧室利用者数3,625人、視聴覚室902人(令和元年度実績)・開室日249日 20人/日 【来場者数】20人×249日 5,000人 |
| | 大レクチャー室 貸室事業 | | 100 | 10,500 | 大レクチャー室定員(150人)×参加率0.7=105人/回と設定 年間貸出可能日数334日(営業日358日-普及イベント利用24日)、年間日稼働率30% 100日(小劇場利用率より設定) 【来場者数】105人×100回=10,500人 |
| | 各種イベント・サービスのオンライン配信(有料) | | 24 | 840 | 普及イベント時の同時配信、リアル3.5・オンライン35(計70)で設定 【来場者数】24回×35人=840人 |
| | | | 20,000 | | |
| 計 | | 457 | 199,000 | 1日平均555人 現在の利用者数(展示・レファレンス・イベント等) 163,882人 現状の約120% | |

カフェ・ショップ、コインロッカー、自動販売機は除外
立ち寄り利用除く

展示事業除く
(1.2回/日)

1,680

普及発信施設における来場者数想定【C: 展示観覧料無料】

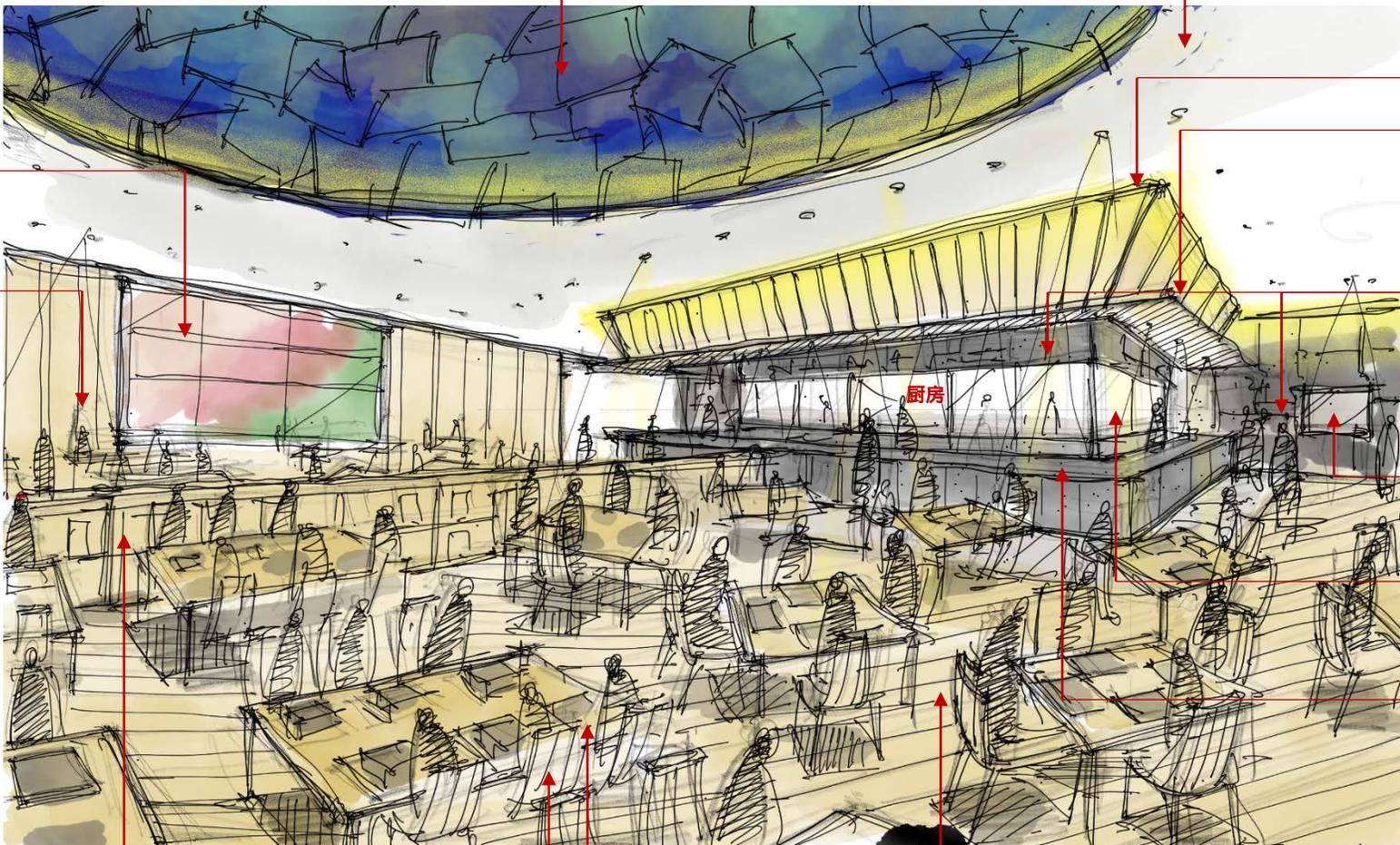
| 【設定条件】 | | | 【設定の考え】 | | |
|---|----------------------------------|------------|---|----------------|--|
| ・開館日数 358日 ・休館日 7日間(12/29～1/2、創立記念日、施設メンテナンス日) ・基本営業時間 10時～19時(9時間) | | | ・普及・発信施設として観劇利用の促進や伝統芸能の普及啓発目的を踏まえ、利用料金の設定はできるだけ低価格に設定 ・展示事業は、普及発信施設目的達成に向けより多くの方に観覧してもらうため、無料とする。 ・原則、何を主目的にきたかをベースに積算 | | |
| 区分 | 事業内容 | 事業数(回) | | 年間来場者数(人) | 備考 |
| | | 日 | 年間 | | |
| サービス購入型 + 利用料金制 (混合型) | 体験展示 | | 1 | 155,000 | 来場者人数はH31年度観劇利用者数4.7万人より、その25%が観覧と設定 レクチャー室利用者想定を1万人/年とし、その25%が観覧と設定 体験展示を目的として来館する人を100人/日と設定(団体3組程度) 【来場者数】(470,000×0.25) + (10,000×0.25) + (100×358)=155,800 155,000 |
| | 展示関連イベント(体験展示・事業者企画) | | 12 | 420 | 展示テーマに合わせた講師を招いた講座やワークショップ、スタッフによる案内等、レクチャー室小や体験展示室内などを想定。 月1回程度 レクチャー室小定員(50人)×参加率0.7=35人 【来場者数】12回×35人=420人 |
| | 企画展示(振興会企画) | 310 | | 64,480 | 現情報展示館 平均208人/人(H31年度実績・約64,000人、公演利用者数の約13%) 年間開催日数(H31年度実績):309日 展示替え期間10日/回、メンテナンス等考慮 |
| | 集客イベント(大型) | | 4 | 55,900 | ・さ(らまつり)H31年度実績48,000人、鏡開き(1,000人設定)リニューアル効果として1割増し ・夏や秋の季節に合わせた施設全体的なイベント(盆踊り・夏祭り、お月見等関連で各1,000人設定) 【来場者数】(48,000人+1,000人)×1.1+1,000人×施設全体イベント2回=55,900人 |
| | 集客イベント(通常) | | 24 | 840 | イベントスペースやレクチャー室を使用した簡易なワークショップや演奏会・イベント等のイメージ 平均50人程度×参加率0.7=35人、週1回、参加費無料で設定 【来場者数】24回×35人=840人 |
| | 劇場ツアー(基本) | | 226 | 3,164 | 土日祝日の1日2回(113日:5.0週×2+祝日13日 土日除く)、20人設定×参加率0.7=14人 減免率0.6と設定 ※参考> H31年度公演実績:大劇場196日・260回、小劇場196日・307回、休演日162日(想定) 【来場者数】113日×2回×14人=3,164人 |
| | 劇場ツアー(特別) | | 4 | 56 | 年4回程度、20人設定×参加率0.7=14人 基本ツアーに特別体験等オプション付き等(食事券セット、お土産付き等) 減免率0.6と設定 【来場者数】4回×14人=56人 |
| | 劇場ツアー(自由見学)、立ち寄り | | 358 | 14,320 | 運営スタッフが案内せず、来場者自身で施設内見学や、立ち寄り利用(自由見学)を想定 憲政記念館(近隣施設)の年間来場者数約72,000人(208人/日)の20%と設定(40人/日) |
| | 各種イベント・サービスのオンライン配信(有料) | | 24 | 840 | 普及イベント時の同時配信、リアル3.5・オンライン35(計70)で設定 【来場者数】24回×35人=840人 |
| | | | | 295,000 | |
| サービス購入型 (料金収受代行) | 展示関連イベント(振興会企画) | | 8 | 280 | レクチャー室小定員(50人)×参加率0.7=35人、四半期に2回 【来場者数】8回×35人=280人 |
| | 普及イベント (伝統芸能講座・ワークショップ、レクチャー) | | 30 | 4,200 | レクチャー室大・小定員(200人)×参加率0.7=140人、年28回(伝統芸能講座・ワークショップ各月1回、レクチャー隔月1回) 参加費は普及発信機能の主旨から現行同様に無料 【来場者数】30回×140人=4,200人 |
| | レファレンス(閲覧・視聴関連) | | 1 | 4,500 | 年間閲覧室利用者数3,625人・視聴覚室902人(令和元年度実績)・開室日249日 20人/日 【来場者数】20人×249日=5,000人 |
| | 大レクチャー室 貸室事業 | | 100 | 10,500 | 大レクチャー室定員(150人)×参加率0.7=105人/回と設定、1日貸室料18万3千円(TOKYOFMホールより算出) 年間貸出可能日数334日(営業日358日-普及イベント利用24日)、年間稼働率30% 100日(小劇場利用率より設定) 【来場者数】105人×100回=10,500人 |
| | 各種イベント・サービスのオンライン配信(有料) | | 24 | 840 | 普及イベント時の同時配信、リアル3.5・オンライン35(計70)で設定 【来場者数】24回×35人=840人 |
| | | | | 20,000 | |
| 計 | | 457 | | 315,000 | 1日平均879人 現在の利用者数(展示・レファレンス・イベント等) 163,882人 現状の約190% |

カフェ・ショップ、コインロッカー、自動販売機は除く
立ち寄り利用除く

展示事業除く
(1.2回/日)

1,680

CH=4.5m設定 円形折り上げ (ドーム形状高天井5.5m)



円形折り上げ天井：特注不燃和紙+間接照明

ベース天井：塗装

55インチの9面マルチ
×2か所

壁：舞台解体木材使用
底目地をランダムに配置

有料エリア (チケットあり)

無料エリア (チケットなし)

有料エリアと無料エリアを分ける
腰高什器 (可動式)
チラシ、パンフレットや雑誌を
並べられるようにする

テーブル (4席用、6席用)：木

床：フローリング 舞台解体した木材を再利用

カウンター回りだけ床を石張り

天井から間接照明

木のイメージ 尾州檜

カウンター上部：木パネル 舞台解体した木材を再利用
木パネルはやすり、染色対応

壁、厨房壁：石 (乾式工法)

モニター55インチ×4台

厨房はガラス貼りにして、料理している姿を見せる

カウンター：石 カウンタートップは磨き、
腰はジェットバーナー



木のイメージ 尾州檜



椅子



料理イメージ

CH=4.5m

木格子ルーバーの
下端までで3.2m

壁：左官（黒）

壁面仕器：内部 木目
棚下ライト付き



ディスプレイスペース
右のイメージの木のボックス
に棚下照明



木格子ルーバー

格子自体の高さを300mm
赤いラインを正として、船底形状の天井へ



ワゴン仕器

ベース天井：オフホワイト、中央は木パネル

壁：舞台解体木材使用
底目地をランダムに配置
レストランの左奥の壁と同じ

仕器：木 横格子 スケッチ色の木

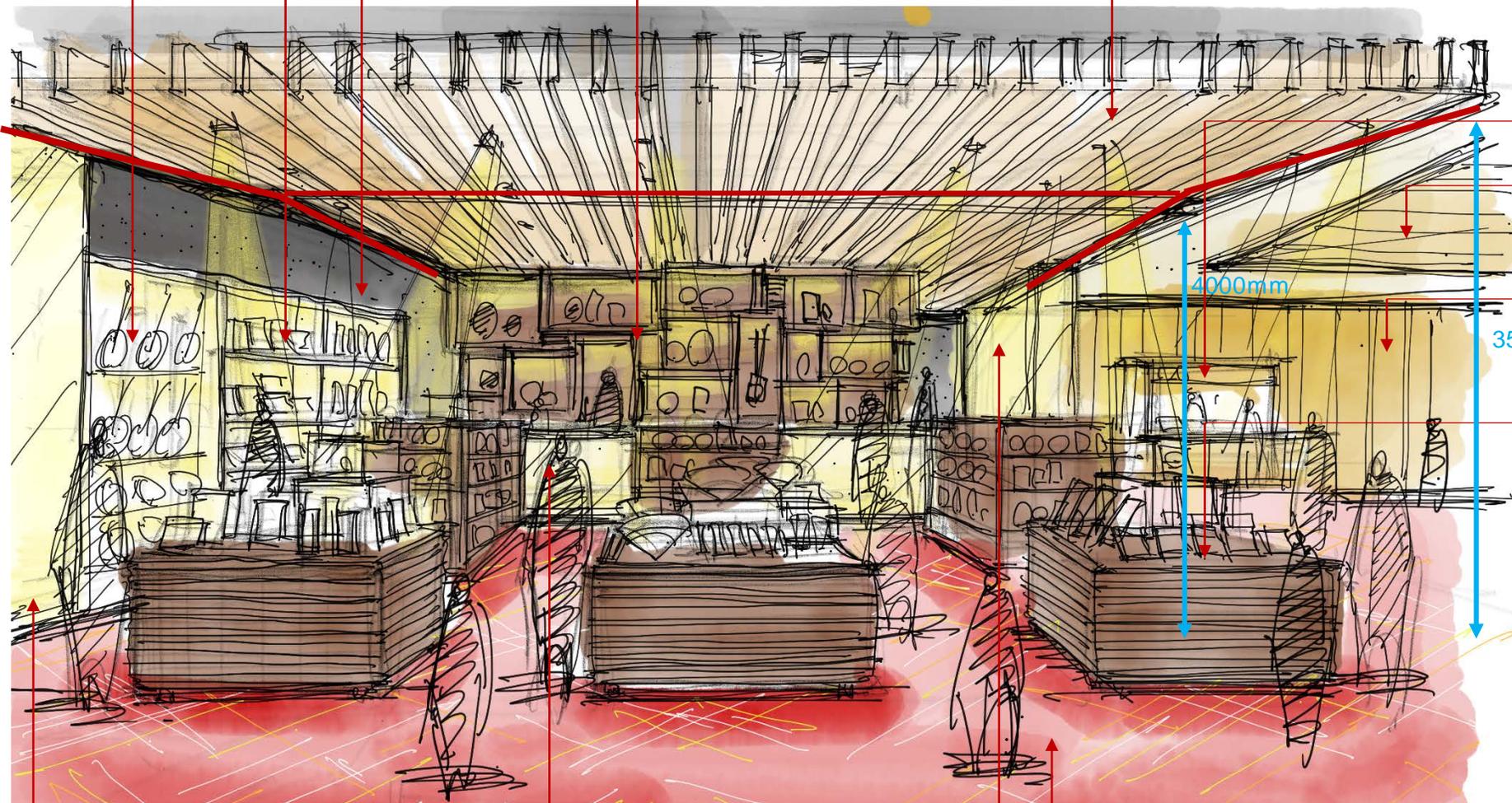


3500mm

4000mm

床：特注グラフィックカーペット
イベントスペースと同じ

和紙の行燈
お会計カウンターも同様



CH=5m ジグザグ天井の下端までで4.5m

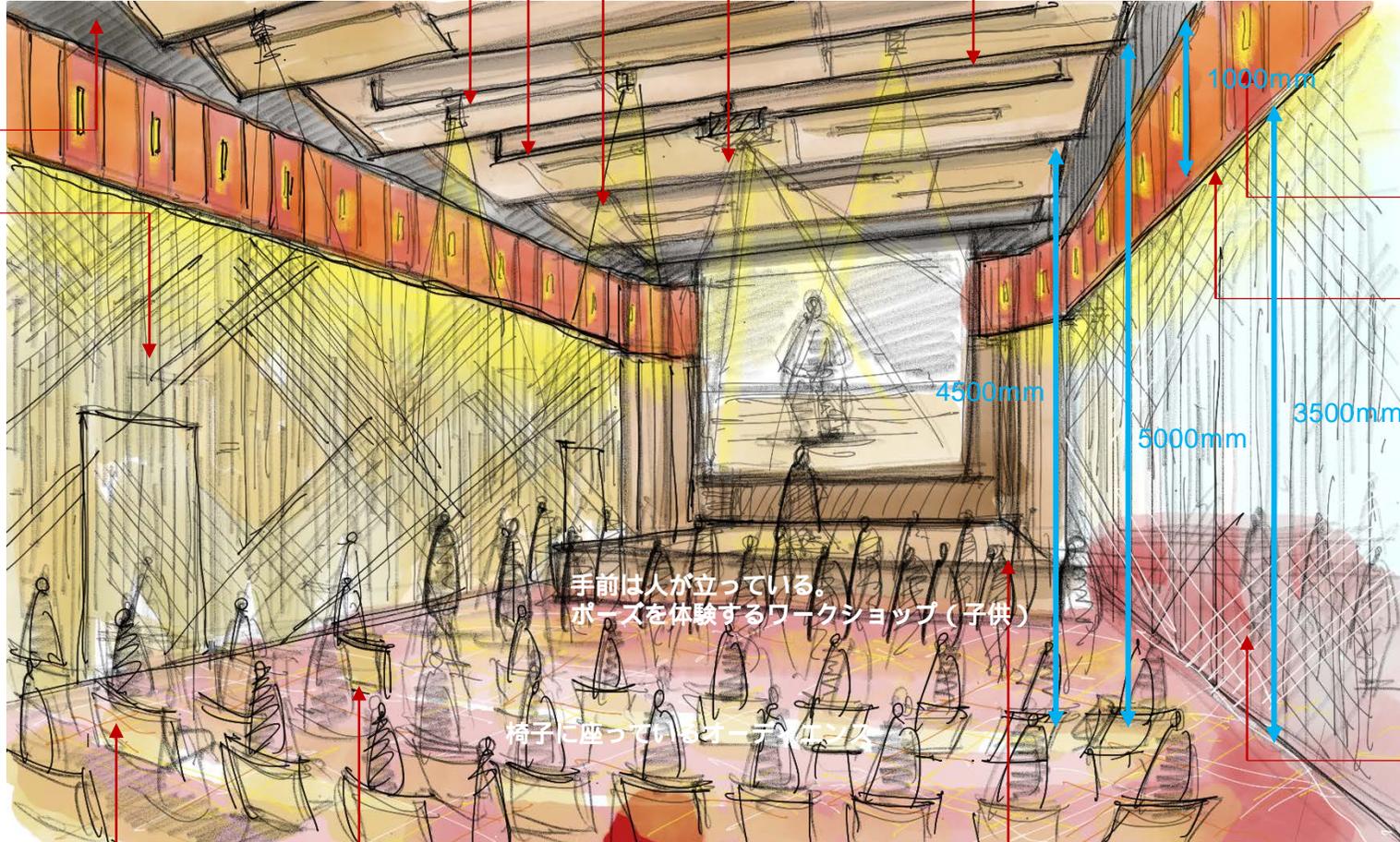
子ども向け 歌舞伎動きのポーズワークショップ
後ろで親が座って見ている

左右の黒のエリアは天井がぬけている。
[天高5m] 色は黒色

格子を縦方向、斜め方向に組む。
3層構造。イメージは下記



椅子: HIROSHIMA
[マルニ木工]



昇降ボタン

PJ+スクリーン

ジグザグ天井

右のイメージ(木パネル仕上げ)

木染色+照明

間接照明

ガラス+グラフィックフィルム

壁面収納型ステージ

可動式ステージ

床: 特注グラフィックカーペット
イベントスペースと同じ



CH=4m、高天井CH=7m設定

イベントスペースと同じ考え方

高天井：木格子

イベントスペースと同様

木格子は4段。右記のように重ねる形で。

高天井のベースの色は右のえんじ色。



ベース天井：
下のイメージのえんじ色壁紙。



ベース天井：木パネル

SIGN:吊りサイン ベース：黒Stメラ焼き+シルク印刷

間接照明

間接照明

モニター：55インチ×14台

7000mm

赤い壁面：格子壁 下記写真の木の組み方+染色
水平垂直ではなく斜め(45度)方向で

4500mm



3500mm



ラインは横方向

パンフレット、チラシ置場 Stメラ焼き

卓上行燈

ニッチ：黒色 漆

カウンター(健常者用、車いす用)：天板...檜の無垢材、腰は内照式+格子(横方向)

